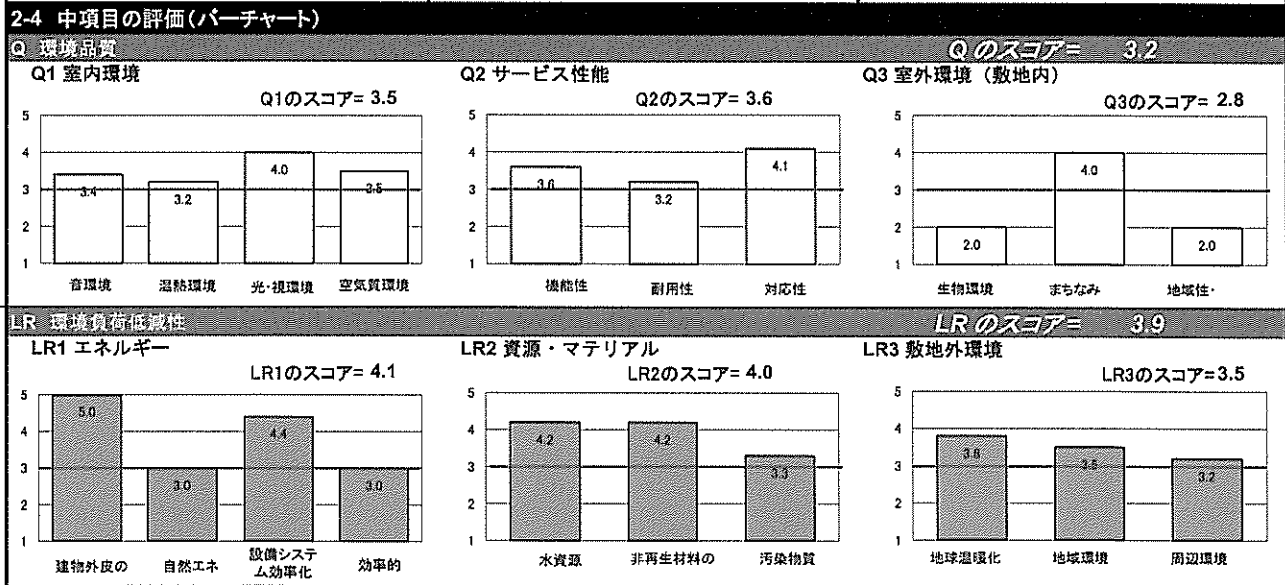
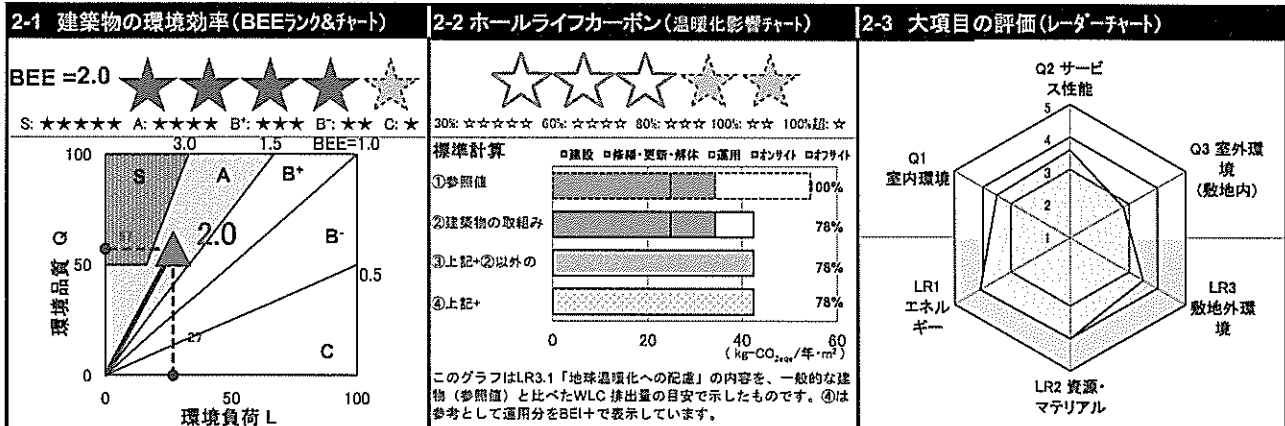
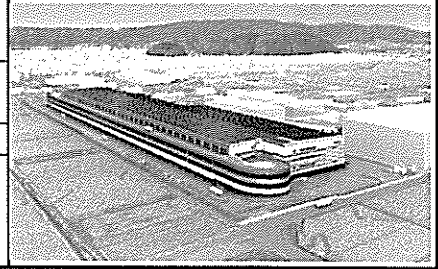


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MFLP京都八幡Ⅱ新築工事	階数	地上4F
建設地	京都府八幡市戸津水戸城301番地	構造	S造
用途地域	法22条地域	平均居住人員	1,053 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年9月 予定	評価の実施日	2026年8月7日
敷地面積	78,815 m ²	作成者	竹内 渉
建築面積	43,122 m ²	確認日	2026年8月7日
延床面積	161,553 m ²	確認者	川村 学



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO2排出量の低減に努めている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、居室に開閉可能な窓面積を多く確保することで室内の良好な空気環境に配慮している。	・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。 ・耐用年数の長い内装材・配管材等を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	・植栽による修景、視点場からの外観パースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に寄与している。	・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される